

【発表題目】

教員養成の指導者＝教師教育者に求められる資質・能力
社会認識教育学会編『地理歴史科教育』の分析

【発表構成】

1. はじめに
2. 『地理歴史科教育』の理念
3. 『地理歴史科教育』が育成しようとする教師像
4. 指導者（教師教育者）に求められる資質・能力
5. 『地理歴史科教育』を教科書・参考書とするシラバスの分析
6. おわりに

1. はじめに

本発表の目的は、教員養成のための教材を分析することを通して、教材の理念、それを用いる指導者（教師教育者）に求められる資質・能力を明らかにすることである。また、その教材を利用した講義のシラバスを分析することで、教材が講義の中で活用されているか考察していく。本発表では、社会認識教育学会編『地理歴史科教育』（以下、本書と略記）を分析対象とする。

本発表のRQを以下のように設定する。

- RQ1：本書の理念は何か。
RQ2：本書が育成しようとする教師像はどのようなものか。
RQ3：本書を活用するために指導者（教師教育者）に求められる資質・能力は何か。
RQ4：本書は講義の中で活用されているか。

2. 『地理歴史科教育』の理念

構成や内容の分析から明らかになった本書の理念は、大きくは次の2点である。

- (1)社会認識教育研究の成果から地理歴史科教育の意義を示す。
- (2)地理歴史科の授業を類型化、分析し、それを提示する。

以下、この2点について本書の記述から具体的に説明していく。

※「」内の<>は発表者による。

(1) 社会認識教育研究の成果から地理歴史科教育の意義を示す。

これについて特に現れている部分は、主に資料2～5である。

資料3から、これまでの教材とは異なり、第1～4章で地理歴史科教育の意義・課題、教育論・実践の歴史、目標論・学力論、内容構成論について述べていることが読み取れる。これらは地理歴史科教育の本質的な部分であり、資料2で示されているように本書では社会認識教育研究に基づいている。

本発表では、地理歴史科教育の本質の1つであり、本書で最初に述べられている、地理歴史科を教える意義について明らかにしたい。

資料4, 5において、「だれもが…(中略)…知っているべきものとして、地理や歴史」¹を教える授業や「客観的な学問研究の成果である地理や歴史」²を教える授業は、地理歴史科を教える意義が見出しづらいとしている。これに対して、「現代社会の理解に必要な手段として、地理や歴史を選択し」³教える授業は、「現行の制度や政策、理念や問題の期限や成立過程を示せるし、他の国や地域との比較をさせて、自国や自地域の現状を理解させることができる」⁴と教える意義を明らかにしている。この授業以外にも、「将来の社会を作る」⁵のために教える授業についての意義も併記し、地理歴史科を教えることの意義に関する答えが一つではないことを示している。しかし「このほかにも」⁶と記述が始まっていること、記述量が少ないことから、本書の示す意義には該当しないと考える。

従って、地理歴史科を教えることの意義は、現代社会を分かるためにつまり社会認識の手段として地理や歴史を選択して教えること、である。

(2) 地理歴史科の授業を類型化、分析し、それを提示する。

これについて特に現れている部分は、主に別添資料の表1～3、資料8～16である。

別添資料は第5章から第7章における第2節の具体的な項目を示したものである。日本史を除き、地理では3類型6授業、世界史では3類型3授業を提示していることが分かる。

資料8～16を参考にして、授業がどのように分析され、提示されているか見ていく。地理では、「教科書出版社が地理教科書と対応させて作成している教授資料」⁷と「経験を積んだ教師」⁸による指導計画を示している。まず指導計画の目標、意図、授業の構成、展開について説明し、次に指導計画を提示している。世界史では、まず類型・指導計画の特徴が説明され、次に指導計画の実際を提示し、さらに指導計画の特色として作成段階や課題、

¹ 『地理歴史科教育』2010, p.3

² 同書 p.3

³ 同書 p.3

⁴ 同書 p.5

⁵ 同書 p.4

⁶ 同書 p.4

⁷ 同書 p.46

⁸ 同書 p.46

意義を述べている。

これまでの発表の中で、(1)のように地理歴史科の本質に迫りその意義を明確にしようとした教材、(2)のように授業を類型化、分析し、それを提示した教材はなかった。そのため、(1)(2)は本書の特徴であり、他の教材にはない本書の理念であると考えられる。

以上を踏まえ、RQ1に応えたい。

RA1：社会認識教育研究の成果から、社会認識のための教育という地理歴史科教育の意義を示し、授業を類型化、分析し、それを提示することである。

3. 『地理歴史科教育』が育成しようとする教師像

本書が育成しようとする教師像は、次の2点であると考えられる。

(1)地理歴史科教育の意義を説明することができる教師。

(2)自らの授業を反省的に捉え、改善することができる教師。

以下、この2点について資料を参考にして具体的に説明していく。

(1)地理歴史科教育の意義を説明することができる教師。

これについて特に現れている部分は、主に資料5である。

教師は「学習指導要領や教科書」⁹に依拠するだけではなく、「冒頭の問い〈地理や歴史を教育することの意義〉に正対し」¹⁰、「すでにある答えを参考にして、自らの答えを作り出す」¹¹ことが必要であり、さらに「生徒自身にもその意義を追求する場を与え、なぜ地理や歴史を学ぶのかに答えることができるよう」¹²しなければならないとしている。地理歴史科では、冒頭の問いに対して授業のなかで答えることが求められており、これにより地理歴史科は「教師のものであるとともに生徒のものとなる」¹³と述べられている。

このことから、教師には、地理歴史科教育の意義をすでにある答えつまり研究成果を参考に作り出すこと、生徒にもその意義を追求させること、が求められていると考えられる。地理歴史科を教師と生徒のものにするためには、生徒に追求させるだけでなく、教師も自らの作り出した意義を生徒に説明することができなければならない。

このため、本書が育成しようとする教師像の1つは、地理歴史科教育の意義を説明することができる教師であると考えられる。

(2)自らの授業を反省的に捉え、改善することができる教師。

これについて特に現れている部分は、主に資料6、8である。

⁹ 同書 p.4

¹⁰ 同書 p.4

¹¹ 同書 p.4

¹² 同書 p.5

¹³ 同書 p.5

教師には「自らの実践を反省的に振り返り、創造的で豊かな実践を生み出していくこと」¹⁴が求められており、「学習指導において…（中略）…適宜発問や作業活動を創造し、実践していく必要がある」¹⁵と述べられている。

このことから、教師は自らの実践の目的や内容、方法などについて反省的に振り返ることが求められると言える。反省的に振り返る際に必要となることが授業を分析することであると考えられる。2で示したように、本書では授業の類型化し、分析したものが提示されている。ここから、自らの実践を分析するための示唆が得られる。具体的には、どの類型に当てはまり、目標は何か、どのような内容を取り扱っていたのか、どのような授業展開だったのか、課題はどこにあるのか、などである。教師にはこのような分析をもとに、授業の改善点を見つけ出し、新たに発問や活動を創造し実践していくことが求められている。

このため、本書が育成しようとする教師像の1つは、自らの授業を反省的に捉え、改善することができる教師であると考えられる。

以上を踏まえ、RQ2に応えたい。

RA2: 地理歴史科教育の意義を説明することができ、それを踏まえて自らの実践を分析することで反省的に振り返り、改善することができる教師である。

4. 指導者（教師教育者）に求められる資質・能力

本書を教材として用いる指導者（教師教育者）に求められる資質・能力は、社会科教員養成の学生に、社会認識教育を踏まえた地理歴史科の本質を捉えさせ、授業を分析する能力を身につけさせることができる資質・能力である。

本書の対象は、資料8にあるように「教員を志望する学生である」¹⁶と考えられる。学生に育成されるべき能力として、授業を分析する能力、授業を構想する能力、授業を実践する能力が挙げられる。2, 3で考察した内容から、本書を用いることで主に授業を分析する能力を育成することができると言える。授業を分析するためには、なぜこの授業をするのかという意義や目的を明確にすること、分析の視点や方法を獲得することが必要である。これらは、本書を読むだけで容易に身につくものではなく、指導者（教師教育者）の存在が不可欠である。指導者（教師教育者）には、社会認識教育に基づき、資料3にあるような、地理歴史科の意義や課題、教育論・実践の歴史、目標論・学力論、内容構成論などを語ることができ、学生がこれら地理歴史科の本質を踏まえた授業分析ができるように指導することが求められていると考えられる。

¹⁴ 同書 p.15

¹⁵ 同書 p.46

¹⁶ 同書 p.46

以上を踏まえて、RQ3 に応えたい。

RA3 : 社会科教員養成の学生に、地理歴史科の本質を踏まえた授業分析ができる能力を身につけさせることができる資質・能力。

5. 『地理歴史科教育』を教科書・参考書とするシラバスの分析

ここでは、2~4 で考察したような特徴のある本書が、講義の中で活用されているか考察していく。方法として、本書を教科書・参考書に指定している講義（必修・選択必修）のシラバスから分析を行う。対象は、札幌大学、専修大学、西九州大学、広島大学、福岡教育大学、三重大学、(50音順)の6大学である。

6大学のシラバスを整理したものが別添資料の表4である。学習目標は、シラバスに記載されている到達目標などを発表者が要約したものである。講義内容の分類は、指導要領の読解、授業分析、授業構想、授業実践(模擬授業)の項目で行った。分類の留意点や、除外した講義内容などについて備考に示した。

分析の結果、本書を十分に活用していると考えられる講義とそうでない講義があること、それには授業者の経歴が大きく関わっていることが明らかになった。

講義内容の分類を見ると、授業分析だけではなく授業の構想や実践まで力を入れるタイプ(以下タイプA)と授業構想も行うが授業分析を主とするタイプ(以下タイプB)に分けられる。タイプAには札幌大学(吉嶺茂樹)、専修大学(増田純一)が該当する。学習目標として、目標・内容・方法などの知識や技能の習得など実践力の育成を掲げており、講義内容として指導要領の読解から実践まで幅広く含んでいるといった点が共通している。一方で、タイプBには西九州大学(松尾正幸)、広島大学(草原和博)、福岡教育大学(小田泰司)、三重大学(永田成文)が該当する。学習目標として、授業分析力や授業構想の視点の獲得といったことを掲げており、講義内容として地理歴史科の本質を踏まえた授業分析に力を入れている点が共通している。

タイプAとタイプBで講義内容が大きく異なる要因として、授業者の経歴が考えられる。タイプAの吉嶺は高等学校の教員であり、増田は経済学を専門としている。2人とも社会科教育学、特に本書の重要な要素である社会認識教育とは密接な関係にないことが予想され、本書を教科書としながらも実践力の育成に重点を置いているのではないかと考えられる。一方で、タイプBの4人(松尾、草原、小田、永田)は広島大学大学院教育学研究科に所属していた経歴が共通しており、本書の重要な要素である社会認識教育について深く学ぶ機会を得ている。このため、本書を教科書として授業分析力の育成に重点を置いているのではないかと考えられる。

以上のことから、本書を十分に活用していると考えられる講義は、社会認識教育に深く関係している授業者による講義だと結論づけられる。これを踏まえて、RQ4 に応えたい。

RA4：本書を十分に活用していると考えられる講義とそうでない講義があり，活用していると考えられる講義は，社会認識教育に深く関係している授業者による講義である。

6. おわりに

本発表では，社会認識教育学会編『地理歴史科教育』の分析を通して，本書の理念や育成しようとする教師像，指導者（教師教育者）に求められる資質・能力，本書が講義の中で活用されているかについて考察してきた。

本発表の課題を挙げるなら，本書の活用についてシラバスの分析に留まり，実際の講義内容を比較できていないことである。福岡教育大学（小田泰司）では，本書を用いて地理歴史科の意義などについての考察，授業類型の特徴の把握，最後に授業構想を実際に行っており，ある程度シラバスに沿った内容であった。しかし，他の講義もシラバスに沿った内容とは限らない可能性がある。また，本発表では同じタイプと分類したが，実際の講義を知ることで分類が変化することも予想される。

教材が指導者（教師教育者）にどのように使用されているかを把握するためには，公表されているテキストの分析だけではなく，実際の講義について知ることも重要なことであると考えられる。

【引用・参考文献】

・社会認識教育学会編『地理歴史科教育』学術図書出版，2010年

・札幌大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

http://syllabus.sapporo-u.ac.jp/Syllabus/Sbsca010vi.jsp?p_param_1=105414-01

・専修大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

<http://syllabus.acc.senshu-u.ac.jp/syllabus/syllabus/search/SyllabusInfo.do?nendo=2012&kogikkey=1>

・西九州大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

<http://er.nisikyu-u.ac.jp/abu0310/readsyllabus?si=79&mod=2&sid=50&ry=2015&f=0&d=3&s=0&c=0>

・広島大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabus/2015_03_CC246713.html

・福岡教育大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

<https://slbs-fue.fukuoka-edu.ac.jp/syllabus/syllabus/search/SyllabusInfo.do?nendo=2014&kogikkey=>

・三重大大学シラバス（最終閲覧日：5月17日）

<https://syllabus.mie-u.ac.jp/?action=display&id=3730>